

第3回 当別町立地適正化計画策定委員会 会議要旨

1. 日 時 令和元年11月28日（木） 10:00～11:30
2. 場 所 役場 大会議室
3. 出席者 黒澤委員長、且見委員、細川委員、高橋委員、杉本委員、
宮崎委員、梅本委員
4. 説明員 江口企画部長、乗木まち再生室長、高田まち再生室主幹、
菅原まち再生室主幹、西脇まち再生室主任
5. 会議要旨
議題
(1) 当別町立地適正化計画（素案）について

【委 員】

31ページに商業施設の民間施設は駅前通に集積していると記載があるが、特に商業施設はどちらかという本通りや中央通りに集積していると思うので駅前通という表現は違和感がある。

また、43ページの医療施設や福祉施設の拡充の箇所について、どこまで内部協議しているのか。町内の病院が閉院したことにより、昨年度に地域医療のあり方検討会議が発足し、報告書をまとめている段階である。いずれにしても札幌圏域では病床数は足りているので、新規に病院を建てるのは困難であると感じる。

例えば、札幌等の既存病院の病床の一部を町内にもってくるのはまだ考えられる。この箇所だけ今後の見込みについて数値が記載されており違和感がある。地域医療のあり方検討会議の報告書との整合性をとった方がいいのではないか。

また、サービス付き高齢者向け住宅について、一人で持ち家に住んでいる方が、施設に入るまでもないという方が入るケースが多いためニーズはあると思う。例えば、太美はサービス付き高齢者向け住宅はない状況なので、現状整理の部分で記載しなくてもよいのではないだろうか。病院の閉院により、その状況を維持できれば需要促進も考えられるが、捉え方によっては58床程度の病床数を有する病院がなければいけないと捉えられる。町内ではそこまでいっていないので関係部署と協議した方がいいのではないか。

【事務局】

福祉等の既存計画や地域医療のあり方検討会議の報告書をみて記載したが、再度、表現方法を確認する。

福祉部のほうで今後確定していくと思うが、地域医療に関する指針を作成中である。指針ができた段階で情報共有していき、立地適正化計画としての適切な表現を検討していく。

【委員長】

この箇所は現状分析だけではなく、希望的観測がとられていることに違和感を感じる。現状分析のみにした方がいいのではないか。

【委員】

82ページの目標値は居住誘導区域に関わらず、町全体の目標値になるのか。

【事務局】

町全体の目標値である。居住誘導区域を指定し施策を展開する中で、効果が区域外にも波及することが考えられるため、目標値としては町全体でと考えている。

【委員】

居住誘導区域に対する目標に見えてしまうので、81ページとの整合性が必要ではないか。

また、大学生は人数ではなく町内居住の割合がいいのではないか。

【事務局】

町では医療大学生の町内居住を千人プロジェクトを展開している。そのため人数の方が整合が図れる。

【委員】

82ページについて、バスの利便性があがるが、本数は増えないのか。

【事務局】

人口減少するなかで目標はあくまで社人研ベースになるため、バスの利便性を維持しながら本数も維持する。

【事務局】

公共交通の強化ということで、当別町版 MaaS についての検討をしている。

町内の公共交通の利便性を高め、将来的に人口が増加する施策を行うが、一時的に人口減少はするので、その際にも当面維持していく方向で考えている。

【委員】

76ページの子育て支援施設の充実については、現在も発達支援センターの活動は既に進んでいる取組を行っていると感じている。公園の整備も段階的に進めてきているがインパクトは薄いと感じる。

例えば、兵庫県相生市では平成23年から子育てに関する11の施策を打ち出して、子育て世帯への経済負担の軽減等を重視して行っている。町は子育て世帯への経済負担の軽減が足りていないのではないか。経済負担の軽減は外から人を呼び込む場合は特に大事になってくるのではないか。

空き家・空き地を活用した住宅支援についてはぜひ実施してほしい。空き家対策に繋が

るし、町内の住宅産業の活性化なども期待できる。

子育て世帯の住宅取得支援については、過疎地では昔から実施していたが、最近では北広島市等の都市部の自治体でも新築や中古住宅の取得に関する支援制度を実施している。町は新たに実施するのであれば、それを超えるような取組を行わないといけない。

【事務局】

今年度、人口減少問題対策プロジェクト会議を庁舎内で立ち上げて、子育て世帯等の移住者を増やすという観点で情報共有や他市町村の事例等の情報収集を行っている。その中で予算上実現するかわからないが、来年度、再来年度の予算に向けて案として出ているのが、対外的に子育て世帯が魅力を感じてもらえるような事業をプロモーションすることを検討している。これを立地適正化計画の中でどこまで盛り込めるかを改めて検討させていただきたい。

2点目の空き家等について、小中一貫校の建設を控えているので、あまり財源を充当できないが、空き家の活用については、前段のプロモーションの中で道内の近隣市町村等にアプローチできる仕組みを検討したい。

3点目について、子育て世帯向け住宅については、町営住宅の中でも公営住宅法に基づくものではなくて、子育て世帯をターゲットにしたお洒落な住宅建設や軽減措置もセットで行うなど、インパクトを与えられるかを再検討したい。

【委員】

目標値の設定について、立地適正化計画は人口減少の中で、どうやってまちづくりをしていくかの計画であるが、今ある施設がこれからも維持されて、人口集積を行う中で、人口密度を維持してまち全体を支えていこうという空間の概念も大事なポイントである。計画の趣旨を踏まえたうえで、空間の概念と福祉等の他分野の制度をリンクさせていく意識をもってほしい。

関連して、誘導施策の箇所を検討しますとの記載があるが、財政環境が厳しい中で全部を行うことは難しいのであれば、既存の制度を見直すなどを行って実現してほしい。

【委員長】

具体的な施策をみてもインパクトに欠ける。現在の施策と新しい施策を分かるようにしたほうがよいのではないか。

【委員】

計画の中で言っていることはわかるが、絵に書いたときにイメージがわからない。表現することは難しいが、全体的な構想がみえない。

【委員】

今後のスケジュールについて教えてほしい。

【事務局】

年内までに皆様からの意見をいただき、住民説明会を実施し、その意見を受けて原案を作成した後にパブリックコメントを実施する予定です。今後、都市計画審議会も開催するので、意見等がでてきたら、パブリックコメントの実施前に策定委員会を開催する予定です。

【委員】

住民説明会は概要版の方が理解していただけるかもしれない。また、計画を実現していくには庁舎内でも理解してもらうことも大事である。

【事務局】

概要版も最終的に作る予定である。

【委員長】

もう一度最終的な策定委員会を予定しておりますので、それまでに（素案）をもう一度ご覧いただき、ご意見をいただくかたちでよろしいか。

【事務局】

年内を目途に事務局までご意見をいただきたい。

以上